

津山文化センター周辺
文学散歩

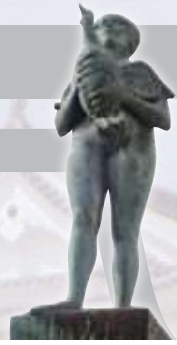
鶴山通り



津山市出身の俳人「西東三鬼」の句碑
【花冷えの城の石崖手で叩く】



「王貞治」記念植樹の桜



ブロンズ像「本郷 新」作【朝】
鳩を抱く少女像



「白石不舎」の句碑
【佐保姫に合ふ靴をおく花の下】



「谷崎潤一郎 棟方志功」句碑
【歌々板画卷より】
揮毫 柳井道弘



グラフィックデザイナー
「粟津 潔」作の外壁
(生物や大地の営みを表現している)



明治、大正初期の美作歌壇の指導者
「直(じく) 頼高」の句碑
【おのつから あゆみもおそくなりけり
さくら花さくのへのかよひち】

鶴山公園
裏門



津山文化センターは、永い時の流れを通じて親しまれてきた津山城跡に「現代の城」として、郷土を愛する多くの人々の力を結集して文化の向上、振興に貢献するために建設された市民のコミュニケーションの場です。

建物は、敷地を構成する末広りの城壁に対し、日本古来の社寺建築にみられる、逆に上に広がる意匠をあて、三層を支える斗拱(ときょう)構造が最大の特徴です。

いろいろな建築雑誌やWebでも「国宝級」の建築物などと紹介されています。

1967年第8回建築業協会賞受賞【川島甲士】設計

規模/地下1階 地上3階 別棟1階
大ホール 1054席 会議室 8室



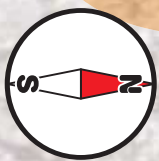
津山市山北出身「大谷碧雲居」の句碑
【秋風や城といふ名に石粘るる】

津山城

薬研



薬研堀：断面V字形の堀を「薬研堀」と称した



津山城址を一周するコース「文学の散歩道」にその他の句碑がたくさんあります